

八王子市立中学校部活動検討会議 会議録

会 議 名	令和7年度第1回八王子市立中学校部活動検討会議		
日 時	令和7年7月23日（水） 午後6時30分～午後8時30分		
場 所	八王子市役所本庁舎 801 会議室		
出 席 者	NP0 法人八王子市スポーツ協会 八王子文化連盟 八王子レクリエーション協会 中学校 PTA 連合会 学校運営協議会 大学コンソーシアム八王子 スポーツ推進委員協議会 中学校校長会 小学校校長会 会長 理事長 会長 会長 会長 事務局次長 会長 校長 校長 澤本 則男 土井 俊彦 松井 秀夫 廣田 貴子 金村 真爾 鎌田 正純 青木 純 鴨狩 淳一 平田 英一郎		
	生涯学習スポーツ部長 学校教育部長 指導担当部長 教育指導課長 生涯学習政策課長 スポーツ振興課長 統括指導主事 地域教育推進課長 学校施設課長 学務課長 教職員課長 佐藤 晴久 松土 和広 上野 和広 古川 洋一郎 田島 裕子 吉森 研吾 志村 亮介 高橋 健司 平井 智也 中野 みどり 櫻田 俊二		
欠 席 者	スポーツ施設管理課長 吉田 博、教育総務課長 武井 博英、中学校長会 田中 慎二		
議 題	報告 (1)学校部活動及び地域活動に関するガイドライン (2)学校部活動の現況 (3)八王子市教育情報プラットフォーム (4)地域活動に関する取り組み (5)今後の進め方について 意見交換 テーマ：地域団体が子どもたちを受け入れるにあたっての不安や困りごと、今後の展開・現状についての意見・感想		
会議の公開・ 非公開の別	公開	傍聴者の数	0 人
配 布 資 料	・次第 ・学校部活動の現況 ・八王子市教育情報プラットフォーム（通称：ハプラ）のご紹介 ・令和7年度実施 子どもたちが参加できる地域活動についてのアンケート概要 ・令和7年度実施 子どもたちが参加できる地域活動についてのアンケート集計結果（7月14日現在） ・地域活動チラシ		

会議の内容	〔佐藤部長〕ただいまから令和7年度第1回八王子市立中学校部活動検討会議を始めます。今年4月の組織改正及び人事異動により、スポーツ担当部長が廃止されまして、生涯学習スポーツ部長となりました。本日より本会議の進行を務めさせていただきます。 昨年度のこちらの会議におきまして、皆様からご意見等頂戴しまして、ガイドラインとしてまとめさせていただきました。こちらのガイドラインの中には、今後検討することをあえて散りばめさせていただいております。本日はガイドラインができてちょうど1学期が過ぎるところですので、学校の状況等を事務局からご報告させていただいて、今後考えていかなければいけないことについて、進めていければと思っております。 会議及び会議録の公開についてですが、「八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針」に基づき、原則、公開となっていますので、本日の会議につきましても、公開とします。現時点で傍聴の方はおりません。それでは次第に従いまして進めていきます。 それでは報告事項に入ります。(1)から(5)まで報告事項ありますが、事務局からまとめて説明をさせていただきます。ご質問等ございましたら最後にまとめて行いたいと思っております。それでは、報告事項「(1) 学校部活動及び地域活動に関するガイドラインについて」、事務局から説明をお願いします。 〔古川課長〕八王子市における学校部活動及び地域活動に関するガイドラインにつきまして、今年3月に策定されてから本日に至るまで検討会議の開催がありませんでしたので、本日改めてご報告させていただきます。令和6年10月及び12月に開催されました令和6年度第2回及び第3回の部活動検討会議で協議し、皆様からご意見をいただきながら、ガイドライン策定の作業を進めて参りました。令和7年2月に教育長決裁においてこのガイドラインの採用について決定をしております。令和7年3月に開催されました市議会の文教経済委員会において報告、それから3月開催の小学校中学校それぞれの校長会での周知を行い、またホームページにも掲載・公開し、市民の皆様にも周知を図っているところです。策定の過程では、検討会委員の皆様に様々なご意見をいただきましたこと、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。 ガイドラインにつきましては、完成はしましたけれども、ガイドラインの中でも、今後の検討課題としている事項、例えば、15ページにはコーディネーターの配置を検討するということが書かれておりますし、16ページですと大会等のあり方について検討していく、それから最後の17ページでは広域部活動における生徒の移動手段についてなど、こういった様々な検討課題がまだ残っているところがございますので、今日以降の検討会議におきましても、ご意見を頂戴することがあるかと思っておりますので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。以上です。 〔佐藤部長〕続いて「(2) 学校部活動の現況」について、説明をお願いします。 〔事務局〕ただいまご説明がありましたガイドラインの3ページをご覧ください。現在の学校部活動ですが、当該ページ上段の左側、学校部活動の再編にならない、これまで各学校に設置されていた部活動を、4つのカテゴリーの部活動、特色ある部活動、広域部活動の3つの分類に合わせて再編をしております。令和8年度末までに段階的に再編をしていく流れを各学校がロードマップとして作成をしています。このロードマップに従いまして順次、1年生、2年生、3年生で段階的に部活動の改革を各学校は進めております。 拠点校部活動ですが、3ページにあります、広域部活動の中に拠点校部活動というものを設置しております。これは拠点校と言われる、学校に設置されている活動に他校から、子供たちが通って参加をするという形の部活動になっております。現在14校8種目に47名の生徒が参加をしている状況です。今後、
--------------	---

より増えていくものと考えております。

続いて、部活動指導員です。これまでの部活動指導補助員よりも多い時間数で指導ができる指導員を導入しております。7月7日時点で18校に23名の部活動指導員が配置されています。現在は運動部で11種目20名、文化部で2種目3名が指導員として配置されている状況です。

次いで、陸上競技場の利用状況ですが、令和7年度より陸上競技部が上柚木陸上競技場、富士森陸上競技場の減免利用ができるように、スポーツ施設管理課と連携をして取り組みを行っております。この6月・7月について、上柚木陸上競技場では、6月に延べ42人、7月に71人、富士森陸上競技場では、6月に延べ128人、7月は71人が利用をしている状況です。現在は夕方4時から6時の利用というかたちで減免利用ができるようにしておりますが、今年度の利用状況を踏まえまして、今後の運用についてさらに検討していきたいと考えています。

学校・保護者からの相談内容としましては、部活動のロードマップが今年度動き出しているところで、年度当初に多くの質問等を学校や保護者の方から受けております。多かった内容としましては、拠点校部活動の制度についての質問、また4つのカテゴリーの部活動がロードマップの中で今後どのように変化していくのかということのご質問、また学校からは、ロードマップを変更することは可能かというような質問が年度当初多くありました。そちらについては検討をさせていただいている状況です。私から以上になります。

【佐藤部長】 それでは報告事項「(3) 八王子市教育情報プラットフォーム」についてお願いします。

【事務局】 それでは八王子市教育情報プラットフォーム、通称ハプラのご紹介をさせていただきます。まずこのハプラについてですが、パワーポイントも併用してご説明させていただきます。こちらのウェブサイトですが、内容としては、子供たち一人一人に学びの場を提供して、生涯にわたって学び続ける環境を整備するために、様々な情報を集約した教育情報のプラットフォームになっております。こちらは、今年の4月から運用を開始しております。これまでも教育に関する情報は、市のホームページ等、様々な場所で情報発信しておりましたが、今後はこちらのハプラを活用し、それらの情報を集約しまして、教育における情報のターミナルというコンセプトで運用を開始しています。

本日はこの中で部活動改革に関わる「体験」のページについてご紹介いたします。こちらでは、市内あるいは近隣で開催されるイベントであるとか、または地域のクラブ活動などを紹介しております。イベント一覧や学校部活動のロードマップ、それからスポーツ、文化・芸術に分かれており、それぞれクリックしていただくと、子どもたちが参加できる地域団体が見られるようになっていきます。また、現在、夏休み期間ですので、上の方には夏休みイベントカレンダーなどにもアクセスできるように掲載をしています。こちらに関しては4月から運用開始したばかりですので、今後、より見やすいように、内容を整理するなど、情報の充実をしていければと考えております。以上です。

【佐藤部長】 こちらは子どもたちが持っている一人一台の学習用端末から見られるということですね。それでは続きまして「(4) 地域活動に関する取り組み」をお願いします。

【事務局】 地域活動に関する取り組みとしまして、今年度、アンケートを実施しました。令和5年度から地域団体に関する情報は子どもたちに順次発信しておりましたが、その状況の実態把握をする目的で、児童・生徒を対象にアンケートを実施しましたので、ご報告いたします。

まずアンケートの対象者ですが、小学5年生から中学3年生を対象に約2万名に実施しております。回答方法としては、一人一台の学習用端末 Chromebook

を通じて回答いただいております。回答期間が7月26日まで設けておりますので、ここでは7月14日時点で回収できている約5千件の回答の集計結果を報告させていただきます。

アンケートの内容は主に3点です。1点目が、「地域活動の存在を知っているか」という認知度について、2点目が「市HP等にて公開している地域団体の情報について実際に見たことがあるか」という活用度について、3点目が「それらの地域に参加したことがあるか」という参加率について質問をさせていただきました。

現時点での集計結果ではありますが、7割程度の児童・生徒はそもそも地域団体のこと知らないということがわかりました。そんな中でも中学1年生において相対的に認知度が高いという結果が出ております。これにつきましては、今の中学1年生については、入学前に地域団体の周知チラシを配布させていただいており、その効果によるものと推測しております。

また、活用度及び参加率についても、先ほどの認知度同様、少しではありますが中学1年生の割合が高くなっています。参加率は中学1年生で13.6%という結果が出ています。また、地域活動に参加したことがある児童・生徒に参加理由を尋ねたところ、一番多かったのが「(地域活動が)面白そうだったから」という回答でした。一方で、地域活動に参加しない理由として、そもそも「地域活動団体があることを知らなかった」という回答が圧倒的多数でした。これを受けまして、まずは地域団体の認知度を高める、そもそも活動を知ってもらうため、改めて児童・生徒へ周知をしていきたいと考えております。

【佐藤部長】報告(1)から(4)までのところで、振り返り等を含めまして、ご質問等ありますでしょうか。

【参加者】(2)学校部活動の現況の部活動指導員というのは、去年から増えているのでしょうか。

【中野課長】去年よりも増えています。昨年は11月時点で13校16名の方をお願いをしていたところですが、今年度は18校23名と、増えている状況です。

【参加者】ありがとうございます。

【参加者】地域団体を知らないというのは切実な声だと思います。この間、グループ校の学校サポーターとして、いろいろと今後の話をする中で、市のホームページだとたくさんありすぎて地域団体を見つけるのが大変だということ、また、距離が非常に遠くて困るという話は結構出てました。本校の小中一貫の中で、保護者の方が、地域に実はこんなお囃子とかイベントとか、実はたくさんあるということで、グループ校の中で冊子を作りたいという話になりました。来年新1年生として入ってくる方たちが、事前に見られるように写真や金額、場所そういったものを集めますって言ってくださった。それを中学校で印刷して、地域の活動に参加ができるように今作ろうとしています。保護者の方が情報を見るのに量が多すぎるのと、市のホームページが見つらいとか、情報をキャッチするのがなかなか難しいという話が結構出ていました。あと、ハブラについてはいい取り組みだと思います。今後こういう取り組みで地域とつながってきたいというお話を先日事務局からいただいて、本当にありがたいなと思ったのですが、実は今タブレット端末が1人1台ない状況で、このアンケートを答えるのも交代で端末を使ってやっています。端末が壊れて、本校で言うと50人近く(修理に出して)戻ってきていない。そういう状況が近隣校にもあります。夏休みの宿題とかも全部止めちゃって、保護者から「差が出てしまう」というクレームが出ています。1年生は入学してから夏休み前までに1度も自分のタブレットをもらえないという状況が発生しているので、ハブラを

夏休みに見ようと思っても多分見られないのではないかという課題が実はあります。だから、これだけ知られていないというのは、やはりそういったところで、周知が徹底できないというよりは、現物が見られないという課題が今の学校の中であります。このアンケートに答えるために、私の学校は、パソコンをまわして答えてもらっているという状況が実際にあります。なので、そういったところの課題を改善しないと、タブレット端末を使えない状況があるというのは、1つ考慮しないといけないと思います。これから、おそらく学校選択制があって、どこの学校にしようかなと多くの保護者が考えるときに、いまだに部活動で選ぼうとしている保護者がたくさんいらっしゃる。地域の団体が非常に協力的で、本当に学校と寄り添ってやっていただいている協会や連盟に丁寧に対応していただいているのは、ありがたいなと感じています。以上です。

〔佐藤部長〕他にありますでしょうか。

〔参加者〕レクリエーション協会の中で市民スポレク大会というのをやらせてもらっています。それをもっとうちの団体からもPRして、体験とかも設けて参加してもらって、さらに広げるということをもっと徹底して、私どもの方から声かけてやるようにいたします。今でもやっているんですけども、さらに声を大にしてやっていきたい、そういうふうに感じました。

〔参加者〕このアンケートの集計結果が、今まだ20,000人中約5,000件ということでかなり低いですが、これはもう夏休みに入ってしまったが、タブレット端末を子どもたちが持っていて、入力できるという前提でしょうか。

〔事務局〕学校によっては今週が終業式の学校もありますので、基本的にはそれまでに学校で答えいただく想定で依頼をさせていただいております。

〔参加者〕ありがとうございます。ハプラの情報というのは、どのように子供たちに周知されているのでしょうか。

〔田島課長〕先日、こちらのチラシを小学校5・6年生には紙で、中学生にはデータで学校からの配布をお願いして、周知させていただいております。

〔参加者〕ありがとうございます。

〔佐藤部長〕よろしいでしょうか。また何かありましたら後ほどお願いいたします。続きまして、報告事項「(5) 今後の進め方について」、説明をお願いします。

〔事務局〕本検討会議につきまして、令和5年度から開催し、この3月にガイドラインを策定させていただきました。そこを1つの区切りといたしまして、今後、各事項の詳細について具体的な検討に入っていく状況です。今後につきましては、各議題に応じまして、関係する団体等のご意見を伺いながら、検討していきたいと考えております。各団体の皆様には個別にご意見等、具体的な話としてお伺いすることもあるかと思いますが、その際にはご協力をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

〔佐藤部長〕去年は年3回会議を実施しまして、すべての回に皆様にお集まりいただきましたけども、ガイドラインができて、個別具体の課題について事務局の方で検討しながらメールや訪問などによってお伺いしつつ詰めさせていただいて、全体で共有することがあった場合にはまた皆様に集まっていただくかたちで進めたいということで、みなさまよろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。報告事項は以上になります。ここからは意見交換に入ります。事

務局で用意しましたテーマは「地域団体や子どもたちを受け入れるにあたっての不安や困りごと」、「今後の展開・現状についての意見・感想」としてはいますが、それに限らず忌憚ないご意見あればと思います。いかがでしょうか。

【参加者】部活動と地域団体の活動は、評価は同じという話がでてましたが、通知表の中に特記事項として載せるという話ですよね。実は私の孫が中学2年におりまして見せてもらったのですが、地域活動等について親から報告してくださいというような内容でした。学校からの通知のタイミングが短いかなと、もう少し早くできないかなと思います。通知表を作る頃になってやるのではなくて、ちょっと前から出してもらわないと、周知できてないんじゃないかというところもあります。その点、いかがでしょうか。

【志村統括指導主事】タイミングのずれというところは、各校によって出すタイミングが少し変わってくところがあるのかなと思います。今いただいたご意見については校長会・副校長会のほうでも周知させていただいて、きちんと保護者が回答できる期間を設けて対応して参ります。

【参加者】よろしくお願いします。

【佐藤部長】ガイドラインの10ページのところに、学校長はそういった状況を把握して通知表に記載すると書いてあるけど、具体的なところで、もうちょっと改善したほうがいいのかというところですね。

【参加者】活動をするにあたって、お茶にしても華道にしても、お道具の準備が、こちらの方で用意するのか、学校の方でいただいでできるのかということところが明確でないの。あとは器楽についても、音楽室がありますけど、楽器も中学校であれば吹奏楽があると思いますけれども、三味線や笛太鼓ということになると、それも難しいのかなという感じがします。舞踊関係も、洋舞・日舞ありますが、やるにあたってはお世話しなくてはいけない部分もあります。美術に関しては美術室や書道具などあるので問題ないと思うのですが、そういう細かいところの打ち合わせをきちんとしていかなないとなかなか進まないと思うので。

【佐藤部長】地域の活動に関してはガイドライン13ページにありますが、会費や活動場所の使用、使用した保険・謝礼等の実費は、受益者負担を原則とするガイドラインには書いてありますね。例えば、初めての方に対して体験的な場合にはお道具をお借りすることをお願いできればと思いますが、その上で続けたいなと思った人には、こういうところで買えます等のアドバイスいただけると、繋がっていくと思います。多分スポーツも同じだと思います。体験的にやるのと、継続していくのでは、ステップが違ってくる。その辺のところの仕組みが上手く、実際やってらっしゃる各競技・種目の皆様方と対話ができればいいと思います。ありがとうございます。レクリエーション協会はどうか。

【参加者】今現在の活動で言いますと、早朝野球に関しましては、朝6時に試合開始で7時半に終了する。その間の子供が親御さんと来てたりします。ぎりぎり学校も間に合うので、中学生から一番上が80代もいて楽しんでやっています。時間的な問題で、北野や小宮が場所的に近ければいいですが。室内競技と室外競技を細かくして、とにかくPR活動を徹底して、会派ごとに運営し、浸透して、学校だけでなく地域団体にも徹底して周知することが大事なんじゃないかと思っています。

【佐藤部長】レクリエーション協会は来てもらうこともあると思うのですが、

学校へ出向くこともありますよね。

【参加者】そうですね、クラブスポーツ等できついと感じる子は、レクレーションで少しゆるくやっていけば、参加できる子はいるのかなと思います。スポーツ苦手な子でも参加できることができます。学期に1回とか、そういうものがあった方が行きやすいと思います。

【参加者】早朝野球に参加している子供はなぜ行き始めたのでしょうか。知り合いがいてとか親が行ってとか、そういう感じですか。

【参加者】まず親や友達がやっていてという感じです。

【参加者】私も1校目のときに早朝野球やっていましたが、教頭先生が5時50分集合だよという感じで、誰かがいるとそうやって入ってできるけど、やはりチラシとかホームページに載っているだけでは、行ってみようかなっていうのはなかなか難しいですよ。

【参加者】実は以前に八王子中学校教員というチームができていて、もう20名近く入っていたのですが、強いんですよ。先生たちも各学校から集まるので、普段はなかなか練習できないんですけど、楽しくやっている。何らかの関係でやっぱり中学だったので、時間的な管理など、あるときから厳しくなって、早朝野球をやってる先生とか当時の校長先生とかにはどんどんやってよと言われるのですが、なかなか保護者の意見が強いので、最近はやりたいけどできないという現状があります。余談になりますけれども、教職員大会も、早朝野球が入っているときには常に優勝してましたが、早朝野球をやめてから優勝できなくなった。レベルアップに結構繋がってたんですね。学校間の交流にもなっていたようで良かったなと思うのですが、残念です。

【佐藤部長】今の会話の中で、ホームページとかで情報があっても、人がやっぱり1歩踏み出すときには口コミや一言声かけがあると、人は動くという話ですよ。そこは1つポイントかもしれないですね。PTAとしてはいかがでしょうか。

【参加者】やはり部活動の地域移行に関しましては、地域差をととても感じている保護者の方が多くて、街中でいろいろなスポーツクラブとか町内会が活発にやっているような学校の地域と、そういったスポーツクラブが特にないという学校との差があることへの不公平感を持ってしまっているところもあります。また、少し離れたところだと、結局は送迎が必要であったりとか、そういった送迎ができる余裕のある家庭、金銭的な余裕がある家庭との差が出てしまうという不安が現状はありまして、そういった地域の活動への受益者負担、いわゆる月謝とかに対しての補助が出ないものなのかという話も出ています。家庭の環境や状況に応じて、結局子供たちができない。また、地域活動となると、まだまだハードルを高く感じている方もいるみたいで、部活動のように気軽に参加がしにくいと。部活動は体験入部とかがありますが、それが同じ学校の敷地内でいろんなものを試せるっていう気軽さはやはり地域の団体活動にはないので、そういったところでは地域活動が部活動と言われても、やはり戸惑いや不安があるみたいです。あとは、先ほどお話をいろいろ聞いて疑問に思ったのですが、先ほど通知表の時期に通知表のためにという話がありましたが、年間を通して学校は把握してないのでしょうか。通知表をつけるため、評価をつけるために把握するのか、それとも、その生徒がどういった活動に参加しているのかということを把握したくてやっているのか、この時期に配られるというのは、ただ評価のために出しているのか、それともたまたまタイミング的に、その時期にこの生徒がどういった部活動もしくは地域活動に参加しているのかを

把握するタイミングがたまたま被ってしまっただけなのかっていうのは、ちょっと気になります。

あともう1つ、地域活動に登録する方法は、協会に入っているところだけなのでしょうか。新規に登録している団体は、どういう経緯を経て登録をしているのかというのが気になります。

最後に、やはりアンケートの結果がすべてなのかなというところで、周知がなかなか難しいという現状があるのかなと思っています。ただ、参加した理由の中に、「保護者にすすめられたから」というのもあって、ちゃんと親にも情報がまわっているのだなというのが、まだ62という少ない数字ですけども、それでもこの参加した理由の中で、だいが高いところにあるというのはよかったです。ただ、いろいろ工夫はされていますが、やはりどうしても情報が漏れていってしまっているのが、私も残念に感じます。以上です。

〔志村統括指導主事〕 通知表の記載についてですが、こちらは通知表に記載するためというわけではなく、子供たちの地域での頑張りを認めてあげたいというのが目的です。例えばそれが通知表に繋がってはいるんですけど、ただそれを集約するという部分で通知表への記載はあるかもしれませんが、あくまでも子どもたちがどういった活動をしているのかを学校が把握するために行っています。

〔事務局〕 地域活動団体での登録の方法ですが、市のホームページに登録のためのフォームを作成しておりまして、こちらから申請いただくかたちとなっております。注意事項に関して了承いただいて申請いただくかたちをとっています。

〔参加者〕 保護者の受益者負担についてですが、私も学校に着任をして、本校の周りには全く地域クラブが全くなくて、どうしたものかと考えたときに、まずPTAの方で年間にかかる教材費のアンケートで負担に思っているものを出していただいて、それを基に本校では、教材費の見直しを行いました。給食費は無償化になりましたし、今後高校も授業料が無償化になるという話です。すべての教材を見直して、昨年度比で1年生は1万6000円を削減しましたが、教育活動には全く影響ないです。夏服は買わなくていいことにしましたし、その分を子供への投資お願いしますと部活動保護者会でお伝えしました。また、例えばYouTubeで、他市の取り組みで15分ぐらいの映像があるのですが、そういうのも保護者会で見ていただいて、課題を共有する時間を設けました。本校では全く地域の活動がないので、学校で5つぐらい立ち上げました。その理由としては地域クラブも活動する場所がなくてすごく困っています。学校は部活動の活動日数も減っていますし、グラウンドや体育館が空いていて、空調もお金を払えば使えるようになったので、そういう形で今は学校を貸し出していて、施設利用率は80%程度になっています。学校でできるので、子供たちは授業が終わったら「今日はクラブだから」といって、移動がなく、クラブにすぐ参加できる。来年は1つのクラブに50人ぐらい入ってくるという話もでてきています。言い方が難しいのですが、やはり自校でどういうふうに改善していくか、あるいは、同じ金額を払うのだったら少し安くするとか、いろいろ交渉をしていかなくてはいけないと思います。本校で作ったクラブチームは、地域のスポンサーも今6社か7社入っていて、ユニフォームの寄贈や年間の広告料などが入っています。さきほど出ていた体験会も1回500円からできます。そういったものをするようにして、もう今は地域クラブが自分たち自前でまわしています。

八王子の部活動改革は全然遅れていなくて、中体連の総会に行くと、八王子が進みすぎてしまっていて、追いついてないという状況です。今、部活動改革についていろんな校長先生とブロック校長会とかで話を聞きますが、本当に各校長先生頑張って何とかしようと考えています。今後、各学校でいろいろと知

恵を出し合いながら、学校の実態に応じてできることをやっていく必要があるのかなと思います。一応本校でもそういった事例は紹介をしながらやっていますが、学校の実態は様々あるので、そういったところを校長先生が音頭をとりながらやっているのが現状です。

【参加者】学校で立ち上げたクラブというのは、どこが主体でやっているのですか。

【参加者】1つは地域の野球をやっている人で、部活動指導員で来てた人が自分でクラブを立ち上げたいという話があったので、いろいろな地域での立ち上げの経緯とかを調べて、こういうふうにするとスムーズですよと紹介しました。あとは、硬式テニスは、初心者は教員が部活で平日1日だけ教えて、あとは保護者が運営してます。日本工学院専門学校から、学生を時給1000円、レベルによって2000円くらいで来てもらって、大学の会場も借りたりとか、そういったことをしています。バスケットボールも部活動指導補助員の方が、自分でミニバスのクラブを持っているからということで、月2000円とりながらやったりとか、それぞれのかたちでやっています。なので、1つの管理する運営母体があるわけではなく、それぞれがそれぞれの立ち位置でやってるという状況です。

【佐藤部長】学校は学校、地域は地域で色々あると思いますが、ガイドラインの中では13ページのところに「検討する」と書いてあったり、先ほどの受益者負担のところも17ページ最後のところに「経済的に困難な子供たち」や移動手段のことも考えなきゃいけないと書かれています。

【参加者】学校でかかる費用を見直していただいて、減っているのはありがたいとは思いますが、結局、毎月の月謝で考えると、年間でもっともっとかかるわけです。下手すれば5～6万、安いと1000円くらいで参加できる活動もあるとは思いますが、月3000円といっても年間2～3万円。それで子供が何人かいるともっとかかる。そういったところにも繋がって行って踏み出せないってところはあるのではないかと思います。

【佐藤部長】国も課題に思っていることの1つだと思います。

【参加者】それを今まで教員が無償で担ってきたというのがあるので。

【参加者】それを言うと元も子もない話だと私はいつも思っています。

【参加者】そういう意味では、本校は自前でクラブを立ち上げましたが、20人入れれば元が取れると地域団体が計算して、そういった形で折り合いをつけながらやっています。最初は3800円ぐらいではじめて、そのあと企業の出資やスポンサーをもらえれば、さらに安くできるとかそういう工夫をしています。

【参加者】そういう学校がたくさんあるとありがたいですが。

【参加者】実際にやっているのでも、紹介しながらと思っていますが、ただ、なかなか学校の実情もあるので難しいんだと思います。私も相当苦労はしたので。

【佐藤部長】学校運営協議会としてはいかがでしょうか。

【参加者】今までのお話とは少し違ってくると思うのですがよろしいでしょうか。学運協として、こちらの検討会議に出るためにも、先生方や地域の方々

お話ししてきました。1つは、上柚木中学校では、現在、青少対から文化部に対して、例えば夏祭りの看板やポスター作製などの依頼を、青少対として依頼するという形で、文化部の方々に協力してもらっている形をしています。それから、基本的に2つの小学校から上柚木中学校に来てくれるはずなんですけれども、その2つの小学校の放課後子ども教室に協力していただいて、部活動の体験などをやってもらっています。先ほど鴨狩校長がおっしゃっていたように、部活動によって、中学校を選ぶお子さんや保護者が未だにいらっしゃるのので、上柚木中では実際に生徒数が減っているんですけれども、部活動がないから他の学校に行くと言われてしまって、いまだにそういう状況が続いています。全体的に部活動改革は、八王子市として行っているっていうことを言っているにもかかわらず、そういう小学校のお子さんたちがいるっていう現状は未だにあります。ですので、放課後子ども教室の協力を得て、体験を通して小学校と中学校が交流することによって、そこで生徒たちがこの中学校に行きたいっていうふうに思ってもらえるような状況を今作ろうとしています。

また少し違う話になりますが、放課後子ども教室に関しては、予算の部分が違うと思っていますが、もし可能であれば、例えば中学校の部活動で今できないところを、小学校でやっていけばそちらに活動に参加できるような方法を、何か考えられるのではないかとという案が1つあります。また、放課後の子供の居場所として部活動を考える場合、例えば児童館のはちビバとか、子どもの居場所づくりという認識での協力を得られるのではないかとということで、はちビバに話をして協力してもらったりとか、そういった形で、今現在ある部活動に対しても、他のところから色々な協力を入れることで、先生の負担も減りますし、子供たちの活動範囲も広がるところで考えていければなと思っています。いかがでしょうか。

【佐藤部長】 参考にさせていただければと思います。

【参加者】 中学校の部活動についての予算が本当になくて、先生方も「予算があって講師が来てくれればもっとできるのに」という気持ちもあって、予算の確保ができないのかなっていうのは、ずっと考えているところです。先ほどの子供の居場所という考え方も1つなのではないかなというふうに感じました。

【佐藤部長】 部活動指導員とか指導補助員についての予算は全部使いきっているのでしょうか。

【中野課長】 補助員などは、年度途中で予算を使っていない学校から引き上げをさせていただいて、再配当など行い、ほぼ使い切っています。

【参加者】 学校で実施するものに受益者負担は駄目なののでしょうか。少し前に、東京八王子ビートレインズが本校の体育館で体験会をしてくれるってなったけど、料金を徴収して学校の体育館を貸してやるのは駄目だよなという話になって流れちゃいましたが、今の話にあったように、外部団体とかが費用を徴収して実施するのは大丈夫なののでしょうか。

【佐藤部長】 色々な団体が学校を使ってやっていますけど、無料でないところもあります。

【参加者】 きちんと分けないといけないのが、地域クラブなどは外部だから、学校は一切関与しないです。運営はすべて一般的なクラブと同じなので。学校はお金を徴収したりしないです。ただ、専門的な人は1000円では来てくれない時代です。私立に行っちゃう。なので、部費を取っているところもあります。そこは学校管理職がちゃんと管理していかないと、余ったお金が増えて大変だった過去もありました。学校でお金を徴収してクラブに渡すっていうこと

は一切してないです。

〔参加者〕部活は部活でそういう公的なお金もあるけど、外部の団体に体育館を貸して、東京八王子ビートレイنزだったらバスケットボール教室をやってもらうのは問題ないということなのではないでしょうか。

〔佐藤部長〕例えば、学校のグラウンドや体育館でやっている団体の皆さんも自分たちで月謝集めてますよね。無料ではないと思います。

〔参加者〕無料のところもあるんですけど、本校ではちゃんと線引きをして、バスケットボールの保護者会で木曜日の夜にやりたいという話も出ているんですけど、部活が終わったら空調を一旦止めて、保護者のときはお金払ってやってもらってます。それは保護者会で、それぞれお金を集めてやっていて、学校は一切関知してないです。

〔佐藤部長〕営利目的で利益を生み出そうとしてやっている場合には不適切ですが。

〔参加者〕ストップがかかってやめたことがあるのですが、やろうと思えば、子供たちのために体育館を貸してやってもいいということですね。

〔佐藤部長〕多分東京八王子ビートレイنزもそこで儲けようと思ってないと思います。

〔参加者〕例えば目的が地域振興とかで、学校などの集まりやすい場所でやろうとかいう考えがあるんだったら、それはよろしいかなと思います。本校でも最初はやっぱり資金っていうのが一番ネックだったんだけど、クラウドファンディングをやろうということで、学校がやっていいのかどうかスクールロイヤーに相談したところ、駄目だということだったので、やはり自前でやっていかなきゃいけない部分が結構あります。

〔参加者〕学校でクラウドファンディングをやろうとなっても、お返しするものがなくて結局やめちゃったんですけど、やろうとしたら何を返礼品にしようと思っていたんですか。

〔参加者〕例えば試合に来て一番前に座ってもらうとか、月に1回おたよりを出すとか、その程度じゃないのという助言はしたことがあります。

〔佐藤部長〕市の野球場のクラウドファンディングも、返礼品はないです。ただ、1万円以上もらえると、銘板ということで球場にお名前を出します。

〔参加者〕そういう感じでも大丈夫なのですね。

〔佐藤部長〕それに賛同いただける方がいらっしゃれば、お願いしますという考えです。返礼品をつけてしまうと、市外の方は返礼品で呼べるのですが、市民には返礼品をお渡しできないんです。そういったルールがあるので、もしやるのであれば勉強しないといけないです。

〔参加者〕学校でお金を集めると事故に繋がることもあるんですよ。派遣費は保護者会を通して返していくとか、先生方にお金の管理をさせないことにしています。なので、お金も学校では引き落としでやっていますよね。

〔佐藤部長〕鴨狩先生から、日本工学院専門学校の名前が出ましたが、大学関

係についていかがでしょうか。

〔参加者〕大学関係が直接地域団体になっていくことはなかなかないと思いますので、地域団体または各クラブ等々と学生をつないでいくというところで、引き続き、その声があればできる範囲で協力していくというかたちになるかと思います。杏林大学が少し特殊な形態をとっていますので、今、実際に中学校といろいろと話を詰めさせていただいているところです。そのほかの学校になってきますと、どうしても強化クラブみたいになりますと、正直なところなかなか地域と一緒にということはございませんので、その中でというと、少しゆるい教育サークルのような地域と繋がりたいというところ、逆に地域のほうからも要望があったときには、そのような団体を見つけていくというようなところで、おそらくこれからいろいろと変化が起きてニーズが出てくるんだろうと思いますので、そこへの対応を極力強化していければというふうに思っております。

〔参加者〕来てくれるんですか。

〔参加者〕来てくれたり、あとは八王子駅南口から出ているバスを使わせていただいたり。バスが学内まで入っているのを保護者と一緒に見に行っただけです。学生さんのニーズとしては、今、テニススクールのコーチとかで大体時給3,000円くらいで雇ってくれるみたいです。だけど、なかなかそこに入れない学生さんがたくさんいて、活躍の場がないということで、であるならば学校に来てくださいとお願いをしています。保護者が LINEWORKS を使って、欠席者などの全てのスケジュール管理をやっていて、学生さんも今日終わりましたって連絡をしたりとか、今はスムーズにできているようです。要は、向こうのニーズとこっちのニーズをちゃんと合わせていかないと、向こうに負担ばかりになってしまう。ただ、子供たちは本当に専門的な知識を学べる。ラケットの握り方から何まで、細かく教えてくれるから。

〔参加者〕移動手段でバスを出してくれるのはすごくいいですね。やっぱりそれがなくなかなか難しいですね。前任校が長房中と隣で、共立第二がすぐ近くだったので、校長先生とお話をして、合唱祭とかに講堂は使ってもいいよというところまではいったんですけど、バスはさすがに最後まで出してもらえなかったですね。合同練習したいから、バスがあれば行けるのになと思ったけど、移動手段はね。来年マイクログが入っても取り合いになっちゃいますよね。自分のところだけで使うことにならないから、移動手段を何とかしないとけない。

〔参加者〕迎えにきてくれるとかそういうことではなくて、学生が使うバスに便乗させてもらうんです。コースを変えることはルール上できないので。保護者と一緒と同乗していったら、ここに着くなら門の外で待つことがないから安心だねということになって。

〔佐藤部長〕バスを使えるというのは五中の立地的な特性もありますよね。

〔参加者〕学生も授業があつたり、練習があると、なかなか学校に来られないので、だったら大学に来てもらった方が安全だしということで。

〔佐藤部長〕今の話だと、例えば、陵南中だったら、いけたかもしれないですね。

〔参加者〕細かく調整はしたんですけど、保護者のお話を聞くと、例えば学生のところに女の子1人で行かせるのは怖いという話もあったので、数人で行っ

て数人で帰ってくるなら大丈夫かなという話になって。

〔参加者〕バスのことも、クラウドファンディングも、私も色々考えてやっているつもりですが、鴨狩先生にはかなわないです。

〔参加者〕やはり1年以上かかりました。途中で頓挫しそうになったり。

〔参加者〕総合型地域スポーツクラブは八王子ですごく盛んでしたけど、その辺はどなたが管轄されているのでしょうか。もう今はないのですか。

〔参加者〕活動は各地域でしているんですけども、経緯からすると、平成18年ぐらいまでは地区体力づくりという組織が市内に23地区ありまして、地区ごとに学校開放とか、いろいろ調整したりして、そこには体力づくりの方たちも活動していましたし、スポーツ協会とかレクリエーション協会とか、いろんなチームが活動して、各学校で運営してきてたんですよね。その活動が、会費制でやってくださいというふうに市の方針が変わって、現在に至っているの、基本的にはまだ活動を活発にやってる団体もあれば、大分活動が縮小している団体もあります。地域によって様々な状況になってます。先ほど少し話がありましたけど、学校施設の使用については、そういった昔からある総合型地域スポーツクラブとか、スポーツ協会とかレクリエーション協会などは、学校施設を利用しながら、学校の清掃活動ですとか、そういったものに協力していただきながらやってきている八王子独自のスタイルがあります。そういったところの学校施設の使用のルールもしっかりと決めていかないと、今後学校活動と地域活動の両立がなかなか難しくなってくるのではないかと思います。

〔参加者〕例えば、最近、恩方などは全部取り仕切ってて、校庭開放も体育館開放も、総合型地域スポーツクラブが取り仕切ってる。何かイベントやるというと、公園でフットサルなどをやったり、すごく盛んです。そういう地域差がすごくあると思います。そういうところが音頭を取ってくれたら、校長先生が音頭を取らなくてもクラブとかがいくつもできそうな感じはします。

〔参加者〕現状、本校の第4地区の体力づくりなどの総会に出たりするのですが、そこでは「跡取りが欲しい」ということを皆さん言われています。皆さん80代の方も出ていて、会議も出るのが難しい高齢の方もいたりして、もったいないなとすごく思っています。そういったところと繋がると、実際に小学校のバレーボールに本校のバレーボール部の子どもたちが習いに行って、一緒にやっているケースもあります。実はそういう資源がたくさんあるんですよね。

〔参加者〕スポーツ推進委員協議会が多分一番そういった意味では総合型地域スポーツクラブに近いと思います。現在、委員が40名弱いるんですけど、大体8割は地域スポーツクラブからの推薦でメンバーが上がってきておりますので、そういった意味では一番密着してるところです。今いくつか問題点もおっしゃられたように、まず基本的にスタートは社会人対象の体力づくりのクラブです。子どもじゃないんですよ。総合型になってから子供も含めてという形式に変わって、そこで初めて子供を取り入れる枠はできてるんですけど、あくまでも体力づくりからの延長上で、総合型に切り換えたところが多分9割以上なので、やはり現状としては子供が入っているケースは非常に少ない。中には私がいいます第一区は高齢化が非常に進んでいますので、子供たちの層を広げようと思ひましてダブルダッチとか、それからジュニアフットサルとかというようなところで子供のスポーツを別に作って行っております。あと他ではジュニアバスケットというのをやってるようなところも聞きますけど、基本的にこのテーマにあります地域団体の子供を受け入れるにあたっての不安っていうと、あまり子供と一緒にやることに慣れていないっていうことです。ですから、先ほ

どお話に出てましたけど、属人的に親御さんがそのメンバーに入ってるのか、近所でごく親しいお父さんお母さんがいるとかっていうと、たまに入ってきてくれる子供たちもいますけど、それ以外はほとんどまだ見受けられないというのが現状です。そういった中で、ホームページでの紹介フォームですとか、それからハプラというのは非常に大きなポイントになると思います。簡単に言ってしまうと地域スポーツクラブ自体が、非常に認知度が低い。認知度をもっと上げる際に情報発信できるところが、ここにある通り認知度もまだ上がっていないっていうふうになってくると、やはり認知度を上げていくっていうのは1つ課題です。子供たちに、地域団体に興味を持ってもらって、声をかけてもらうっていうのは、第一歩だろうっていう。そういった意味では、6・7月の2ヶ月間で私ども6週間にわたって、親子ネオテニス教室というのを実施して参りました。毎年その期間だけで終わってしまうのがもったいないねって言うてくださるご家庭もいるので、一昨年あたりからはその教室が終わるときに、八王子市内でネオテニスをやっている団体の一覧をスポーツ振興課の方から出してくださって、それで紹介をしています。その中で2~3件、実際に今地域で子供さんとお母さんと一緒にやられているケースもあります。いずれにしてもガイドラインもすごくよくでき上がってきているので、まだまだスタートラインに近いところにいますので、これから我々も含めて認知度をどうやって上げていくかっていうのが、すごく課題なのかなと思います。認知度が低いといいますと、スポーツ推進委員の認知度も非常に低いです。ヘルシーウォーキングなどを実施した後にアンケートをとっても、スポーツ推進委員を知らないっていう人が結構多いので、そんなところも含めて周知活動していかなければいけないかなと思っています。

【佐藤部長】時間も終わりに近づいていますが、事務局の方から追加で聞いておきたいことなどありますか。

【高橋課長】まとめるような話になり恐縮ですが、今日様々、実態であるとか、思いであるとかをお伺いをしました。お聞きになっておわかりになる通り、学校の方で現在、総合型地域スポーツクラブが、しっかりと学校開放の運営をしていただいている学校と、部活動中心で新たなクラブが地域活動として入れているという状況もお伺いすることができました。今回の会議で今後の進め方っていうのをご提示させていただきましたが、行政がしっかりと線引きをして解決をしなければならないことが多々あるっていうのが現状です。なので、しっかりとそこは整理をしながら、皆さんにお伺いする機会ができたときにはそこでまた、実態等を含めてお伺いしたいっていうところが、今日の本旨です。あそこはこうやっているからいいよねというのが、あまり偏ってしまうと、先ほど会長がおっしゃったような、不公平感が出てきちゃうので、そのところは、しっかりと整理をしなければならない。あとは、民間企業がいわゆる営利目的で入り込んでくるというのを、健全育成でやられているところもしっかりあるわけですから、そういうところの線引きもしっかりしていかなくちゃいけない。そういう様々な課題を、今日伺ったお話を元に、更に検討を進めていきたいなと感じたところが感想として言わせていただきました。以上でございます。

【佐藤部長】予定していた時間になりますが、最後、何か言っておきたいことなどございますか。

【参加者】最後に、本当に子供たちが放課後にプラプラすることがない未来をぜひお願いしたい。部活動が週1回の活動とかに今後なってくると思うので、それが親としては本当に切実に心配です。中学生になると、両親共に働いている世帯が多いので、家に3時半過ぎには、水曜日などは半日で、より時間がある子供たちが増えてくる中で、間違いが起こらないように、親もしっかり見な

	きやいけないところですが、学校と地域と親と行政とで協力して、ぜひ見守りをお願いしたいところです。 〔佐藤部長〕 今日様々ご意見いただきましたが、それらを踏まえつつ、市で考えさせていただくという話がありましたけれども、必要に応じてのメール等でご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。 次回以降の検討会議については開催未定ということで、ご案内はできませんけれども、必要に応じて皆様のご意見をお伺いできればと思います。ありがとうございました。
--	--